



令和2年度（2020）
自己点検・自己評価報告書

学校法人 河合塾学園
トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校

2021年7月27日作成

1. 学校の教育目標

本校の教育理念は、『汝自らを求めよ』<自らを究め、この世に生まれて来た自らの使命を見いだして、それをあくまで追求する喜びが、すべての人間に与えられていることを意味する>である。これは河合塾グループの共通理念でもある。この教育理念を『Seek for Thyself』として学章に記して明確にしている。職業教育のいっそうの追求に向けた近年の教育改革の取り組みの中で、専門学校グループとして教育理念をより具体的な言葉にする必要があると考え、平成 25 年度において改めて検討のうえ宣言することにした。その内容は「トライデントは、みなさん一人ひとりを、志望の職業に導くのはもとより、将来、業界を牽引できる人材へと育て上げます。」である。これを、トライデント全校を貫く共通的な教育理念とした。

各学科の教育目標は次の通りである。

<語学系学科：「英米語学科」「国際教養学科」>

「英米語学科」「国際教養学科」の語学系学科は、実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。

この教育目標達成のため、語学の 4 技能を磨くとともに、語学関連資格取得支援を推し進めている。

<サービス系学科：「国際エアライン学科」「国際ホテル学科」>

「国際エアライン学科」「国際ホテル学科」のサービス系学科は、“ビジネス能力・対人サービス能力およびホスピタリティマインド”に優れた人材の育成を目標に掲げ、専門技術の修得のみならず、業界で必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育の理論と実践とを融合させている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

コロナ感染症予防のため、コロナ禍における授業・カリキュラムの実施が最優先課題となった。下記の項目を重点的に掲げ、改革を検討していく。

<2020 年度より>

- ・グローバル学科（3 年課程）の新設（2021 年度入学者より）
- ・コロナ禍にあっても学修を止めない授業方法の確立
- ・海外研修・インターンシップ中止に伴う特別カリキュラム構築
- ・オンラインでのインターンシップ
- ・オンラインでの海外交流
- ・校内環境改善プロジェクト

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
項目2：学校における職業教育の特色はあるか	4	③	2	1
項目3：社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
項目4：学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
項目5：各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

・評価項目3について

教育におけるICTの活用について、対面授業に劣らないオンライン授業の実施やデジタルデバイスを効果的に利用した授業がさらに推進できるように授業方法の研究を進める必要がある。

・評価項目5について

企業との連携強化や企業開拓がまだまだ十分ではない。教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会などを通じて業界ニーズを収集しているが、カリキュラムへの反映ができていない。

② 今後の改善方策

・全教室にPC・プロジェクタを設置。視覚・聴覚の両方を効果的に利用した授業を推し進めていき、学生がより理解しやすい授業を展開する。

・教育課程編成委員会・業界研究依頼企業、企業開拓を通じて収集された業界のニーズに各学科の目標、育成人材像がマッチしているのかを検証し、アンマッチがあれば対応を検討する。

③ 特記事項

・トライデントの教育理念を周知徹底すべく、毎年「トライデントのかなえる力」を作成し、配布している。

・学生には、新入生対象の業界研究の企業講演を通じて、学校で学ぶべき目的等を再確認できるように、また保護者に対しては、保護者会、保護者通信を利用して周知している。

(2) 学校運営

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
項目2：運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
項目3：運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
項目4：人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
項目5：教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
項目6：業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
項目7：教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
項目8：情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

・評価項目8について

個々の業務が複雑で、下流の業務とうまく結びついておらず、業務時間を圧迫していた。使用しているツールの見直し、全体の業務の流れの整理を行う必要があった。

業務の見える化を実施。全体の流れを意識した業務フローを作成し、業務の流れをよりスムーズにするよう意識したデータの作成方法を実行した結果、業務全体の作業時間を大きく削減できた。

さらに、業務のデジタル化を図り、配付・集計などの作業の削減を行った。

② 今後の改善方策

アンケートの実施や配布資料のデジタル化をさらに推進し、さらに効率化を進めていく。

ペーパーレス化を促進するために、担任にタブレット端末を配付。

③ 特記事項

事業計画については「長期ビジョン」「中期経営計画」「年次計画」に基づき、校舎・各学科の年度事業計画を決定し運営実行している。その策定方法については、学校長を中心に、各チームチーフ・学科長の計画や意見を聞いて調整のうえ成案としている。運営状況のチェック確認については、項目によって月次や6ヶ月半期のタームごとに進捗およびスケジュールの確認を行い計画に沿った学校運営に努めている。

(3) 教育活動

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
項目2：教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
項目3：学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1
項目4：キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
項目5：関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
項目6：関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
項目7：授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
項目8：職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
項目9：成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
項目10：資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
項目11：人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
項目12：関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
項目13：関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
項目14：職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目5について

より学生の実践的な学びになる科目内容への変更を行い、自ら考え、発信できる人材輩出に向けてのカリキュラム修正を実施しているが、まだ不十分なところがある。

- ・評価項目11について

業界での実務経験があり、体系的なカリキュラム理解、学生の学習状況把握、成績評価などができ、状況に応じて柔軟に対応できる講師確保が課題である。

・項目 13 について

常勤講師・非常勤講師ともに、ICT を活用した授業実施のノウハウ不足が課題。

② 今後の改善方策

- ・抜本的な見直しが必要であるとの認識で、今後検討を重ね、カリキュラム変更をする予定。
- ・常勤講師・非常勤講師ともに対象として、年 2 回学生指導および ICT を使った授業に関する勉強会を実施。

全学科共通の内容での研修も年 2 回以上、学校主体で企画運営しており、学校として取組みが動いていると評価できる。専門科目に関しての研修は、各講師の自主性にゆだねられている。

- ・2021 年度に実務経験のある教員を数名採用予定。

③ 特記事項

- ・各学科カリキュラムマップを作成し、講師・学生全員に配布している。修業年限に対応した到達目標を設置し、各業界や教育課程編成委員会委員からの意見や要望を組み込んで、カリキュラムの見直しを図り、到達目標達成に向けた科目設置や単位数の変更などを極力次年度で反映させている。

(4) 学修成果

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目 1：就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
項目 2：資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
項目 3：退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
項目 4：卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
項目 5：卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されている	4	③	2	1

評価： 適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

① 課題

・項目 2 について

当校で学習成果を確認する上でも資格取得を推奨しており、進級・卒業条件に組み込むことにより、資格取得への動機付けに取り組んでいるが、コロナ禍で前半検定試験実施が中止になったこともあり、学生の意欲低下がみられた。

・項目 4 について

企業訪問の際に、企業に採用いただいた卒業生のリストを持っていき様子を伺ったり、担任との

やりとりなどで把握したりして情報収集に努めているが、全体を把握しきれてはいない。

② 今後の改善方策

- ・「資格取得率」を学習成果の指標として位置づけ、受験誘導を含め取得率向上への取り組みを強化している。検定試験合格率の目標値を決め、学生への積極的取得を促している。
- ・卒業生の動向（活躍・離職）は、就職先の企業との連携を強めていくとともに、個別に担任から情報を得るなど、卒業生の活躍等を把握していく。

③ 特記事項

- ・教員による担任制度で、年間を通して面談し、退学予備軍の早期発見、卒業後の進路相談とケアが可能になっている。2020年度退学率 6.3%（前年度 7.1%）
- ・資格取得状況（英語系学科 当校 KPI を基準に算出）
 - 1年次 英検準2級以上取得率 55.7% TOEIC470点以上取得率 60.0%
 - 2年次 英検 2級以上取得率 31.1% TOEIC550点以上取得率 42.4%
- ・就職内定率 96.4%

(5) 学生支援

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
項目2：学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
項目3：学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
項目4：学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
項目5：課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
項目6：学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
項目7：保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
項目8：卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
項目9：社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
項目10：高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目 8 について

HP に卒業生専用ページを作成し、各種証明書の申込み、卒業後の就職相談等を行っている。

② 今後の改善方策

- ・施設環境に対応したクラス編成の実施や、体制面の整備。

③ 特記事項

- ・専門学校の使命である就職を念頭においたカリキュラムである。卒業後の進路決定にむけて、キャリアセンター担当者、担任、保護者と連携した体制を整備している。
- ・修学支援制度を申請し、認定校となった。
- ・学生に対する経済的な支援体制は、入学前より学費の相談会の実施や各種奨学金の案内とヨシックス記念財団奨学金の給付型の奨学金、修学支援の案内を実施している。また学内の奨学金制度も特待生選抜制度、トライデント奨学生制度、トライデント同窓会奨学生制度、トライデント海外留学奨学生(スカラシップ留学)制度、ホテル委託奨学生制度、河合塾グループ在籍者対象減免制度、家族入学者減免制度などを設けている。
- ・担任制度によって、年間を通して必要なタイミングで面談をしており、卒業後の進路の希望を細かく聴き取ることができ、ケアが可能になってきている。
- ・卒業生に対しては、同窓会組織の編成以外に、株式会社パソナ(人材派遣・人材紹介の大手)と提携し、就職サポートをおこなう「卒業生就職支援サービス」を、相談員が無料で仕事の適正や悩みの相談に応じる他、全国から求人企業を探して就職先も紹介している。転職希望の有無にかかわらず、キャリアアップの相談や研修受講など、卒業生を継続的にフォローできる体制はあるが、周知・啓蒙がなされていない。

(6) 教育環境

評価項目	評価			
	4	3	2	1
項目 1： 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
項目 2： 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
項目 3： 防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

評価： 適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

① 課題

- ・評価項目 2 について

インターンシップについては受入れ企業の確保、実施時期などが課題。

コロナ禍において実地でのインターンシップの実施ができなかったため、オンラインでのインターンシップの実施を行ったが、参加数が限定的であった。

海外研修については全面的に中止。

② 今後の改善方策

- ・インターンシップの選択肢を広げて参加率を上げる。
- ・コロナ感染状況を見て、可能な国から海外研修の再開を検討する。

③ 特記事項

- ・全教室に教員が指導用に利用できる PC とプロジェクタを設置。
- ・学習環境向上のため、空調設備をリニューアル。ホテル学科の実習室も大幅にリニューアル。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目 1：学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
項目 2：学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
項目 3：学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

評価： 適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

① 課題

教育成果、就職実績の情報発信を教務と連携して強化することが課題。

② 今後の改善方策

資格取得、インターンシップ、特色ある授業内容などを、DM や SNS を通じてタイムリーに発信していく。

③ 特記事項

留学生については、出入国管理および難民認定法に定められる在留資格の活動目的範囲との整合性、ならびに法務省令の所定基準に則した経費支弁能力も付加的に審査・考慮し、入学判定材料としている。

(8) 財務

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目 1：中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
項目 2：予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
項目 3：財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
項目 4：財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

安定した入学者数の受け入れと退学者の抑制が課題。

② 今後の改善方策

- ・学生満足度向上のためのカリキュラム充実。
- ・デジタル化推進により、紙媒体削減による複写費等の一般管理費の抑制。

③ 特記事項

・予算について

学校運営にかかわる予算については、トライデント各校・各学科において年度予算を編成し、学校法人河合塾学園理事会の承認を経て予算が決定されている。予算執行については、河合塾グループの経理規程・予算管理規程に従い、承認された予算の各費目枠内で、執行担当者が所属長および学校長の承認を受けて執行する。予算と実績の差異は定期的にチェックし、予算実績管理の精度向上に努めている。

・監査・財務情報公開について

河合塾グループの部門として、監査法人による会計監査を受けて、良好との判定を得ている。さらに河合塾グループ監査室の内部監査も定期的に受け、問題がない旨の監査結果を得ている。愛知県の経常費用補助に関する指導検査にあたっては、健全かつ良好との講評を得ている。

私立学校法に基づく財務情報公開については、河合塾グループの一員として、法人事業報告と財務状況をまとめ、各校ホームページ上に公開している。

(9) 法令等の順守

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
項目2：個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
項目3：自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
項目4：自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

・評価項目1

現在は自己点検にとどまっている。適正な学校運営を図るため、さらに第三者評価の導入の必要性を感じている。

② 今後の改善方策

既成の評価機関との連携か、評価のための本校独自の第三者団体の創立か、数年後の実施を視野に入れ、慎重に検討を進める。

③ 特記事項

・法令等の順守について

河合塾グループ法務部の監修のもと、専修学校設置基準など、該当する各法令に従い、種々の申請・届け出・報告などの諸手続きを遅延なく確実に実施している。

・個人情報保護について

個人情報保護については、河合塾グループ情報セキュリティ事務局が設定している「個人情報保護方針」をはじめ、情報管理基本規定や各種ガイドラインなどの指示に基づき、業務フローにしたがって業務遂行にあたっている。

・学校自己点検・評価について

学校自己点検・評価は、学校運営において日常的に励行できていない事項、チェック確認が行き届かない事項について、確認・協議、検討・改善などを行う最適の機会であると位置付けている。学科ごとに定期的自己点検・評価を実施し、自己点検委員会が抽出した諸項目のチェック・確認とともに、項目によってはPDCAを回しながらの改善の契機としている。

また、毎年実施される学校関係者評価委員会による会議における指摘事項については、検討・改善を行っている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価			
	4	③	2	1
項目1：学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
項目2：学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
項目3：地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目1について

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献に対して主体的な取り組みができていない。

② 今後の改善方策

- ・近隣の商店街や笹島小学校などの語学関連のボランティア活動を検討する。

③ 特記事項

3年連続で名古屋ウィメンズマラソンのボランティア活動に参加。普段の学校生活では見られない学生の一面が発見できるなど、ボランティア活動の意義も感じている。今後も学生のボランティア活動を奨励・支援していきたい。

(11) 国際交流

評価項目	評価			
	4	3	2	1
項目1：留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
項目2：留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
項目3：留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
項目4：学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目 1 について

優秀な留学生確保のための、国内の日本語学校とのパイプ強化。

台湾の留学生の直接獲得に向けて活動しているが、コロナで現地に行けず、オンラインによる募集活動は継続している。

② 今後の改善方策

- ・就職に必要な日本語能力検定 N1 取得を目標に 2 年間カリキュラムを構築する。
- ・留学生の就職に有利になるように、専門学校履修内容に関連するアルバイト・インターンシップを経験させるように誘導・指導をする。
- ・台湾の日本語学校との継続した関係性強化。

③ 特記事項

- ・全国語学ビジネス観光教育協会主催の第 1 回外国人留学生日本語弁論大会に当校から出場した学生が最優秀賞を受賞。
- ・留学生募集時に、日本語能力検定 N2 取得者限定という原則を堅持することは非漢字圏からの留学生が増加する中で、厳しい状況にある。
- ・留学生の就職に関しては、就職先の職務内容が専門学校における学修内容との関連性が必要となり、これが、留学生にとって就職が厳しくなる要因である。
在学中に日本語能力検定 N1 取得できるように指導するとともに、就職時に有利になるよう、特定技能試験を受けるよう指導を行っている。
- ・2020 年度在籍者は 52 名。出身国はネパール、ベトナム、スリランカ、中国、台湾、タイ、インドネシア、ミャンマー。